


事務事業名		夏イチゴ産地化プロジェクト		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input checked="" type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業	
政策体系	政策名	01 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間	予算科目	
	施策名	04 地域経済を支える地場企業の振興				
	基本事業名	02 新産業の創出と起業支援の充実				
根拠法令				<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 年度～) 年度～ <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度【計画期間】 年度～ 年度  ※全体計画欄の総投入量を記入	会計 科目 事業 01 02 01 06 70	
所属	部課名	商工港湾部産業政策室			事務事業区分	
	課長名	富澤 武弥			<input checked="" type="radio"/> 政策事業 <input type="radio"/> 施設整備 <input type="radio"/> 施設管理 <input type="radio"/> 補助金等 <input type="radio"/> 一般(A～D以外)	
	係名	電話	0192-27-3111			
	担当者	猪股 大貴	内線	107		

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		全体計画(※期間限定複数年度のみ)																									
本事業は、三陸町越喜来浦浜地区における被災跡地に、イチゴ生産・担い手育成拠点施設を整備するとともに、同施設を活用し、施設営農リーダー人材の育成を行い、夏秋期を中心に周年で生産できる夏イチゴの産地ブランド化を図る。 (1)イチゴ生産大規模化による高付加価値農業への転換と産地ブランド化の推進 ①地域経済牽引事業者が実施するイチゴ生産・担い手育成拠点整備事業に対する補助 ②施設営農リーダー人材の確保・育成 ③生産技術の普及、展開 ④産地化構想に基づく産地化の推進 ⑤加工品の開発や商品化支援 ⑥体験農園の実証 (2)間伐材等の木材利用拡大の取組 ①間伐材等の木材利用拡大の取組		<table border="1"> <tr> <td rowspan="7">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計(A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>1,200</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>1,200</td> </tr> </table>		総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計(A)	0	人件費	正規職員従事人数	1	延べ業務時間	300	人件費計(B)	1,200	トータルコスト(A)+(B)		1,200
総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金																									
		都道府県支出金																									
		地方債																									
		その他																									
		一般財源																									
	事業費計(A)	0																									
	人件費	正規職員従事人数	1																								
延べ業務時間		300																									
人件費計(B)		1,200																									
トータルコスト(A)+(B)		1,200																									

(1) 事務事業の目的と指標									
<b>① 手段(主な活動)</b> 前年度実績(前年度に行った主な活動) ・イチゴ生産・担い手育成拠点整備事業に対する補助 ・施設営農リーダー人材の確保・育成 ・加工品の開発支援、夏イチゴ産地化推進協議会の設立、運営  今年度計画(今年度に計画している主な活動) 夏イチゴ産地化推進協議会の運営 ホームページを活用した夏イチゴの魅力発信	<b>⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)</b> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 施設営農リーダー人材によって生産されたイチゴ生産量</td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>イ 夏イチゴ産地化推進協議会実施回数</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア 施設営農リーダー人材によって生産されたイチゴ生産量	kg	イ 夏イチゴ産地化推進協議会実施回数	回	ウ	
名称	単位								
ア 施設営農リーダー人材によって生産されたイチゴ生産量	kg								
イ 夏イチゴ産地化推進協議会実施回数	回								
ウ									
<b>② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等</b> (施設営農リーダー人材となる) 就農・技術相談者 (産地ブランド化推進に関わりうる) 事業所数	<b>⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)</b> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 就農・技術相談者</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>キ 市内の事業所数(経済センサス)</td> <td>事業所</td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	カ 就農・技術相談者	人	キ 市内の事業所数(経済センサス)	事業所	ク	
名称	単位								
カ 就農・技術相談者	人								
キ 市内の事業所数(経済センサス)	事業所								
ク									
<b>③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)</b> 夏イチゴ産地化に向けた取組を行ってもらう。	<b>⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)</b> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ 施設営農リーダー人材によって生産されたイチゴ生産額(生産量×平均単価)</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>シ 施設営農リーダー人材によって三陸沿岸地域で運営される施設における生産面積</td> <td>ha</td> </tr> <tr> <td>ス 施設営農リーダー人材によって運営された施設での雇用人数(研修生・地元パート)(累)</td> <td>人</td> </tr> </table>	名称	単位	サ 施設営農リーダー人材によって生産されたイチゴ生産額(生産量×平均単価)	千円	シ 施設営農リーダー人材によって三陸沿岸地域で運営される施設における生産面積	ha	ス 施設営農リーダー人材によって運営された施設での雇用人数(研修生・地元パート)(累)	人
名称	単位								
サ 施設営農リーダー人材によって生産されたイチゴ生産額(生産量×平均単価)	千円								
シ 施設営農リーダー人材によって三陸沿岸地域で運営される施設における生産面積	ha								
ス 施設営農リーダー人材によって運営された施設での雇用人数(研修生・地元パート)(累)	人								
<b>④ 結果(基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか)</b> 夏イチゴ産地化に向けた取組が積極的に展開され、産地ブランド化が定着する。									

(2) 総事業費・指標等の推移								
	年度	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(目標)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	30,003	11,422			
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円		4,300			
		その他	千円					
		一般財源	千円	30,003	7,123	102	0	0
	事業費計(A)		千円	60,006	22,845	102	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	100	50	50	50	50
		人件費計(B)	千円	400	200	200	200	200
	トータルコスト(A)+(B)		千円	60,406	23,045	302	200	200
⑤活動指標	ア	kg	1,250	5,405	20,000	20,000	20,000	
	イ	回	0	3	2	2	2	
	ウ							
⑥対象指標	カ	人	22	6	14	14	14	
	キ	事業所	2,471	2,471	2,471	2,471	2,471	
	ク							
⑦成果指標	サ	千円	6,200	10,800	25,515	25,515	25,515	
	シ	ha	0.13	0.42	0.42	0.42	0.42	
	ス	人	5	9	11	13	15	

事務事業ID	1783	事務事業名	夏イチゴ産地化プロジェクト
--------	------	-------	---------------

<b>(3) 事務事業の環境変化・住民意見等</b>	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	気仙管内で、大船渡市内の木材加工業者が開発した間伐材による耐候性多用木骨ハウスを用いて、岩手県沿岸地域の気候特性(夏季冷涼で冬季の日照時間が長く積雪がほとんどない)を活かした施設型農業によるイチゴの周年生産技術の実証研究が平成25年度から行われていた。こうした取組を契機に、三陸町越喜来地内の浦浜地区被災跡地に、地域経済牽引事業者がイチゴ生産・担い手育成拠点施設を整備することとし、夏秋期を中心に周年で生産できる夏イチゴの産地ブランド化を図るため、平成31年3月に地方創生推進交付金の採択を受けた。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	地域経済牽引事業者により、イチゴ生産・担い手育成拠点施設が整備され、夏イチゴの生産が開始されたほか、当施設を活用して施設営農リーダーの確保や育成に努めているとともに、夏イチゴを用いた加工品開発等にも取り組んでいる。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	・農業で生計が立てられる高収益作物性作物の導入と生産面積の大規模化により、農業経営の魅力向上のほか、夏イチゴの認知向上、大船渡が夏イチゴの産地となり、雇用も創出されることが利害関係者等から期待されている。 ・木骨ハウスの整備により、市内の間伐材の利用促進や新たな木製品の創出が期待されている。

2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ まち・ひと・しごと創生総合戦略は、市総合計画における各分野の個別計画と基本的な考え方を共有したもので、総合戦略における事業は、地域の特性や地域資源を効果的に生かし、地域経済の好循環を生み出す仕組みづくりなどに取り組むものであり、市の政策体系に結びついている。
	② 公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 市の気候特性(夏季冷涼で冬季の日照時間が長く積雪がほとんどない)を活かしたイチゴ栽培技術と、木骨ハウスという地元で開発された技術を融合した木農連携による新たな施設型周年栽培を推進することで、農林業だけではなく、加工品の活用により菓子製造業や食料品製造業などへの経済波及効果も期待できることから、市が関わることは妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ ・対象：イチゴ生産・担い手育成拠点施設は、施設営農リーダーの育成を図るため、候補生となる意欲ある就農・技術相談者を対象とすることが妥当である。また、生産・販売体制の構築のため、加工品開発を行うと想定される食品製造業者を含む、市内の事業所数を対象とすることは妥当である。 ・意図：総合戦略等に位置付けられた事業で、地方創生・地域活性化に寄与するものであり、適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 地域経済牽引事業者による施設営農リーダーの育成により、当該人材が周年生産を実践し、生産を拡大することで、産地ブランド化の推進や間伐材等の木材利用の拡大が期待できることから、向上の余地がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 夏イチゴの産地化を目指し、関係者が連携して各種取組を進めており、事業の廃止・休止により、これまで築き上げてきた関係者との関係性が失われ、産地ブランド化が停滞する可能性がある。また、事業実施にあたり、国庫事業の交付金を活用していることから、補助金返還が生じる可能性がある。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 令和3年度において、民間事業者による自走化の移行に向けた調整を進めたため、削減の余地がある。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど) 事業スタートから間もない事業であり、地域経済牽引事業者や関係機関、市の併走型支援が必要なことから、これ以上削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 夏イチゴの生産量が増加することにより、農林業だけではなく、菓子製造業や食料品製造業など、他産業への経済波及効果も期待できることから、公平・公正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

<b>(1) 改革改善の方向性</b>		<b>(2) 改革・改善による期待成果</b>																		
1 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	イチゴ生産・担い手育成拠点施設を活用し、これまでの取組を継続しつつ、関係機関と連携を図りながら各種事業を推進する。 また、事業の推進に当たっては、民間事業者による自走化を進め、関係機関・団体と連携を図りながら、夏イチゴの産地化を目指していく。	左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上維持</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上維持	●			低下		×	×
		コスト																		
		削減	維持	増加																
成果	向上維持	●																		
	低下		×	×																
<b>(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等</b>																				
施設営農リーダーの確保・育成に向けた取組を継続的に進めるとともに、産地ブランド化推進に向けた魅力発信を継続して行う必要がある。 また、今後の事業推進に当たっては、民間事業者による自走化を進め、事業者や関係機関・団体と連携しながら夏イチゴ産地化に向けた各種取組を進めていく必要がある。																				

4 課長等意見

<b>(1) 今後の方向性</b>	<b>(2) 全体総括・今後の改革改善の内容</b>
1 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	当該事業は、地方創生推進交付金を活用して実施してきたが、令和3年度をもって国の支援も終了することから、今後においては、地域経済牽引事業者、農業関係団体及び地域住民等で構成する夏イチゴ産地化推進協議会において、当市で新たに行われている施設型・周年生産型農業である夏イチゴの産地化を推進するため、情報共有等を行っていく必要がある。